

母子栄養指導のシステム化に関する研究

高 橋 悦二郎*

総括：母子に対する栄養指導は従前から行われてきたが、時代の移り変わりと共にかなりその内容も変わってきた。

現在は飽食の時代とも言われ、かつて小児栄養の大きな問題であった栄養不足は影をひそめてきた。栄養失調症や、貧血、ビタミン不足等に代わって、過食や運動不足による肥満の問題や、血清コレステロール高値で成人病予備軍と言われるもの、或いは食事性アレルギーの増加も問題となってきた。食事の形態がsoft mild となり、噛まない噛めない児の問題、ひいては顎骨の発育や歯列に及ぼす影響、歯周疾患や、う歯の発生との関連更に食習慣の上から欠食や孤食の問題等も重要視されるようになってきた。

こうした問題の多様化により、母子栄養指導の再検討が望まれてきた。この目的の為に以下の如き研究グループが構成され研究がおこなわれた。

① 母子に対する栄養指導の指針策定に関する研究

水野清子（日本総合愛育研究所部長）

② 離乳食・幼児食に関する研究

高橋悦二郎（女子栄養大学教授）

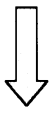
③ アレルギー性疾患に対する食生活指導の研究

高嶋宏哉（日本臨床アレルギー研究所副所長）

④ 歯科疾患予防に関わる食習慣に関する研究

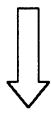
赤坂守人（日本大学歯学部教授）

*女子栄養大学〔Kagawa Nutrition College (Joshi Eiyo Daigaku)〕



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成元年度厚生省心身障害研究

「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」

母子栄養指導のシステム化に関する研究

高橋悦二郎*

総括: 母子に対する栄養指導は従前から行われてきたが、時代の移り変わりと共にかなりその内容も変わってきた。

現在は飽食の時代とも言われ、かつて小児栄養の大きな問題であった栄養不足は影をひそめてきた。栄養失調症や、貧血、ビタミン不足等に代わって、過食や運動不足による肥満の問題や、血清コレステロール高値で成人病予備軍と言われるもの、或いは食事性アレルギーの増加も問題となってきた。食事の形態が soft mild となり、噛まない噛めない児の問題、ひいては顎骨の発育や歯列に及ぼす影響、歯周疾患や、う歯の発生との関連更に食習慣の上から欠食や孤食の問題等も重要視されるようになってきた。

こうした問題の多様化により、母子栄養指導の再検討が望まれてきた。この目的の為に以下の如き研究グループが構成され研究がおこなわれた。

母子に対する栄養指導の指針策定に関する研究

水野清子(日本総合愛育研究所部長)

離乳食・幼児食に関する研究

高橋悦二郎(女子栄養大学教授)

アレルギー性疾患に対する食生活指導の研究

高嶋宏哉(日本臨床アレルギー研究所副所長)

歯科疾患予防に関わる食習慣に関する研究

赤坂守人(日本大学歯学部教授)